# 図書館リニューアルオープンに向けて（その2）

## 収蔵資料の独自分類への取り組み

「旅の図書館」は現在一時閉館し、本年9月をめどにリニューアル開館への準備を進めています。

これまで図書館では、主として国内外の観光地関連資料をはじめ旅・観光に関する幅広い資料を収蔵し、旅先の情報を集める一般の方から観光の研究者や実務者まで幅広い方々にご利用いただいてきました。一方、調査研究部門を有する当財団本部の資料室では、観光研究のための専門図書や調査報告書など、当財団の研究活動に必要な資料を中心に収蔵しています。今回のリニューアルでは、図書館と本部資料室の資料を統合して可能な限り公開していきます。蔵書数は約6万冊の規模となります（従来の図書館の蔵書数は約3万5千冊）。

このための準備作業として、当館では約2年をかけて、

①観光研究に重点を置いた収蔵方針の見直し

②当館および本部資料室の資料統合に向けた分類方法の確立

③収蔵方針・新分類に基づいた資料の選別・再分類・図書館システム情報の変更・図書ラベルの貼り替え

などを順次進めています。

こうした新たな図書館づくりの中でも特に重要な、収蔵資料に対する当館独自の分類方法と取り組みについて紹介します。

### 専門図書館における資料分類の課題

広範な分野の資料を収蔵する公共図書館や大学図書館における資料の分類では、一般に、日本十進分類法（NDC）を用いており、同じ資料は基本的にどの図書館でも同じ分類をしています。

一方、当館を含め、特定のテーマに限定した資料を収蔵する専門図書館では、専門分野に対応した分類方法が課題となってきました。NDCによる分類の場合、観光資料の大半は第1次区分「産業（6）」→第2次区分「運輸・交通（68）」→第3次区分「観光事業（689）」に含まれることになります。現実に、これまでNDCを用いてきた当館の観光研究資料のほとんどは「689」に分類してきましたが、明確な詳細分類がないために、管理運営側だけでなく、利用者にとっても資料を探しにくい状況が生じていました。本部資料室も、別の分類方法で資料を管理してきました。

このような状況から、観光分野の専門性に対応した分類方法の確立は、「旅の図書館」と本部資料室の資料を統合した図書館へのリニューアルを図る上で不可欠な課題となっています。

### 独自分類の構築

収蔵資料に対する分類方法の構築にあたって参考とした専門図書館の多くは、十進分類法をベースに、専門分野に対応した独自分類を行っています。例えば、味の素の「食の文化ライブラリー」では、NDCによらずきめ細かく丁寧な独自分類をしています。「広告図書館」では、一部NDCを用いつつ専門分野に対応した独自の分類を行っています。また「松竹大谷図書館」では、NDCの中の芸術部門について、歌舞伎、新派・新劇、映画・テレビなどに対応して独自に分類をしています。

こうした専門図書館の分類方法を参考として、当館では、体系的な分類に適した十進分類法の長所を活かしつつ、当財団の収蔵資料の特徴や観光分野の専門性に対応していくため、2つの独自分類を含む3つの分類方法を用いることとしました。分類は、運用しながら適宜見直しをしていく予定です（62ページ 図）。

**・T（Tourism）分類【独自分類】：観光研究資料**

観光関係の図書が充実しているのは観光に関する学部や学科を有する大学図書館ですが、広範な分野の資料を総合的に収蔵しその規模も大きいため、観光分野に特化した詳細分類はほとんどされていません。当館では、観光に関する専門性の高い研究資料に対する独自分類に取り組みました（必要に応じて第3次区分まで詳細に分類）。

分類にあたっては、収蔵資料の現状を踏まえつつ、国内外の主要な観光学や観光概論に関する図書の目次やキーワードなどをもとに、当財団研究員とともに検討を重ねながら構築しました（62ページ 写真）。

**・F（Foundation）分類【独自分類】：財団コレクション資料**

当財団の刊行物・出版物や観光統計資料の他、ガイドブック、時刻表、機内誌、古書・稀覯（きこう）書など当財団および当館ならではの特徴的な資料を

**図　収蔵資料の3つの分類方法**

**観光研究資料（T分類）　独自分類**

【対象】観光研究の専門図書・資料

| | |
|---|---|
| T0 | 観光原論・概論 |
| T1 | 観光者・観光活動（Ⅰ） |
| T2 | 観光者・観光活動（Ⅱ） |
| T3 | 観光地・観光資源（Ⅰ） |
| T4 | 観光地・観光資源（Ⅱ） |
| T5 | 観光産業 |
| T6 | 観光計画・開発 |
| T7 | 観光政策 |
| T8 | 観光経営・経済 |
| T9 | 観光と文化・社会・環境 |

**財団コレクション資料（F分類）　独自分類**

【対象】財団関係資料及び特徴的な収蔵資料

| | |
|---|---|
| F0 | 財団（JTBF）関係資料 |
| F1 | JTB関係資料 |
| F2 | 観光統計資料 |
| F3 | ガイドブック |
| F4 | 旅行商品パンフレット |
| F5 | 時刻表・機内誌 |
| F6 | 古書・貴重資料 |
| F7 | 映像・デジタル資料 |
| F8 | |
| F9 | 非公開資料 |

**一次資料（NDC分類）**

【対象】観光研究の参考に資する一次（基礎）資料

| | |
|---|---|
| 0 | 総記 |
| 1 | 哲学 |
| 2 | 歴史 |
| 3 | 社会科学 |
| 4 | 自然科学 |
| 5 | 技術・工学 |
| 6 | 産業 |
| 7 | 芸術・美術 |
| 8 | 言語 |
| 9 | 文学 |

＊分類名については、広義の意味での「観光」を前提とする

対象に独自分類しました。

**・NDC分類：観光研究の参考に資する一次資料**

旅の歴史、社寺、町並み、祭り、温泉、登山、民俗学などの基礎資料については、T分類資料を補完し研究を深めるための一次資料として、従来のNDCを用いて分類しました。

当図書館が観光に関わる皆様に、よりご利用いただきやすいものとなるよう、引き続き準備を進めます。

移転後の図書館リニューアルの方向性や詳細につきましては、次号以降でご紹介します。

（旅の図書館副館長　大隅一志）

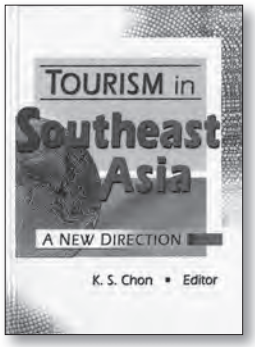
写真　独自分類（T分類）により再整理された観光研究資料

## 所蔵図書紹介

非日常の体験である旅は、しばしば日記や書簡として記録される。探検家や著名な作家のそれらは、その後旅行記となって多くの人の見知らぬ地への興味を掘り起こし、旅へと駆り立てる。愛書家による探書の旅というものもあり、日記や紀行文として記録されることも多い。今日の私たちの身近な旅においても、ガイドブックや旅先で読みたい本などを携行する。旅に書物はつきものである。そして旅行者とともに書物もまた旅をし、貴重・希少な書物は愛書家・探書家を通して世界を旅することになる。本書『**旅の書物／旅する書物 Travel Books and Travelling Books**』（**松田隆美編、慶應義塾大学出版会**）は、16世紀以降の長い歴史の中で記されたさまざまな旅の記録や書物を題材にして、「探書と旅」「旅の記録と旅の実際」「フィクションと旅」の3つの構成によって、旅と書物の緊密な関係を具体的に描き出している。旅と書物の関わりだけでなく、「旅とは何か」を考える多くのヒントも得られるのではないだろうか。（大隅）

A5変型判　246ページ
定価　3,000円
慶應義塾大学出版会
（2015年9月発行）

東南アジアとインドシナ諸国におけるツーリズムの伸びは目覚ましく、各国での成長と発展の段階は異なるが、取り組むべきことは類似している。経済的・環境的に持続可能なツーリズムの促進は共通の関心事である。『**TOURISM in Southeast Asia – A NEW DIRECTION**』（**K.S. (Kaye) Chon編, Routledge Taylor & Francis Group**）の編者による序文の一部である。1990年代後半の東南アジアにおける通貨・経済危機の後、各国のツーリズムへの戦略的な取り組みに関する10の研究事例から21世紀に向けた新たな方向性が見える。2章ではマレーシア（ジョホール州）、シンガポールとインドネシア（リアウ諸島）にまたがるエリアで、国・地方行政・民間の連携のもとでより互恵的にツーリズム振興が紹介され、ASEAN域内での雇用、サービス流通や投資などの規制緩和促進が前提条件との記述が注目される。他に、自然とコミュニティとのバランスの取れたエコツーリズム開発、タイ・チェンマイのコミュニティへのツーリズムによる影響、クルーズ産業の成長と発展をめぐる動きなどから、東南アジアのツーリズム動向の現在を理解するのに役立つ一冊かもしれない。（片桐）




ハードカバー版　177ページ
Routledge Taylor & Francis Group
（2000年3月初版発行）